

2014年度学院留学 研究成果概要

種 別：学院留学（長期／短期）

所属・職・氏名：人間福祉学部・教授・石川 久展

研究課題：ハワイにおける高齢者福祉の現状の把握および高齢者保健福祉専門職の支援の現状と課題の検討

留学期間：2014年4月1日～2015年3月17日

留学先：国・都市 アメリカ合衆国・ハワイ州ホノルル

研究機関 ハワイ大学マノア校ソーシャルワーク学部

研究成果概要（日本文（全角）の場合は3,000字（A4、2ページ）程度）

ハワイでの学院留学中の研究受け入れ機関は、ハワイ大学マノア校ソーシャルワーク学部であり、ハワイ大学側のホスト教員は、留学生と同じ高齢者福祉、国際福祉が専門である Bung Jung Kim 博士であった。留学中の研究課題は、「ハワイにおける高齢者福祉の現状の把握および高齢者保健福祉専門職の支援の現状と課題の検討」であったが、本研究課題に関する研究を実際に進めていく中で、留学中の具体的な研究テーマを次の2つに設定することとした。一つは、ハワイにおける日本人・日系人の高齢者に対する長期ケアや福祉サービスのニーズやサービス提供システムについてであり、もう一つは、アメリカ・ハワイにおける高齢者保健福祉専門職の燃えつきとその関連要因についての検討であった。この2つの研究テーマに取り組むために、ホスト教員である Kim 博士と週1, 2回程度ソーシャルワーク学部でミーティングを持ち、研究を進めていくこととなった。1年間の研究成果概要についてであるが、以下の通り、5つのポイントでまとめることとする。

1. ハワイ州における日系高齢者のための長期ケアや福祉サービスの現状：ハワイ州の高齢者施設やサービスの見学

ハワイ州における日系高齢者のための長期ケアや福祉サービスの現状や実情を把握するために、留学先であるオアフ島にある様々なナーシングホーム、アシステッドリビング、デイケアセンター、リハビリ施設、病院島を訪問・見学した。また、オアフ島以外の現状を把握するために、2014年7月末にマウイ島、11月末と2015年2月末にハワイ島、2015年1月初旬にカウアイ島を訪問し、それらの3つの島にある様々なナーシングホーム、アシステッドリビング、ホームケア、デイケアセンターなどを訪問・見学し、それらの島の長期ケアや福祉サービスの現状を視察した。

2. ハワイ州における日系高齢者のための長期ケアや福祉サービスに関するヒアリング調査

ハワイ州オアフ島における日系高齢者のための長期ケアや福祉サービスの現状や実情をより詳しく知るために、ハワイ大学ソーシャルワーク大学院博士課程の日本人大学院生、日系人支援を目的としたNPO法人若葉ネットワークの会長・理事、日系人にケアサービスを提供している会社であるマザーハワイ、日系人のための集会である木曜午餐会の担当者、日系の不動産業を営むリアルター、教会でデイケアを提供しているマキキ聖域キリスト教会およびインターナショナル日本語キリスト教会の牧師や信徒など、ハワイ在住の日系人で長期ケアや福祉サービスを提供している様々な人々にヒアリングを行った。また、ハワイ州における公的な長期ケア

の現状を聞くために、ハワイ州高齢者局の担当者からもヒアリングを行った。

3. 日系中高年者を対象とした長期ケアのニーズに関する量的調査研究の実施

ハワイ州においては、日系高齢者に対する長期ケアサービスは実際にはほとんどないことや、日系高齢者の長期ケアのニーズやサービスニーズの現状を把握するための基礎的なデータがハワイ州には皆無であることから、55歳以上の日系中高年者を対象として、長期ケアや福祉サービスのニーズに関するアンケート調査を実施した。この量的調査は、ホノルル市およびホノルル近郊に13カ所ある日本語キリスト教会連合の牧師や役員の了解のもと、それらの日本語キリスト教会に所属する中高年者の協力を得て実施した。調査期間は、2014年8月から10月末までであったが、103人からの回答を得ることができた。11月から2月にかけては、本調査で得られたデータを分析し、結果の考察を行った。

4. ハワイ州オアフ島における高齢者保健福祉専門職に対する燃えつきとその関連要因に関する調査研究の実施

高齢者保健福祉専門職の燃えつきに関する研究は、石川の文科省科研費基盤研究Bに採択された研究課題であり、今回の留学の中心的な研究課題であった。アメリカ国内でももっとも高齢化が進んでいるハワイ州オアフ島において、高齢者長期ケア関連の施設や機関に従事する高齢者保健福祉専門職に対する燃えつきとその関連要因に関するアンケート調査を実施することになったが、そのプロセスとしては、まず、調査実施に際してハワイ大学の調査倫理委員会(IRB)での承認を得ることが必要であり、そのために、留学当初の4月から8月末までKim博士とともに調査デザインについて十分な検討を重ね、調査の趣旨、調査項目設定などの申請書に必要な書類を整備した。8月末に申請書を提出し、9月末に調査倫理委員会の承認を得ることができた。2014年10月から本テーマに関するアンケート調査を実施することとなった。なお、本調査の実施については、当初、調査対象となる長期ケアの施設や機関などの組織内部での賛同や了解を得ることが非常に困難な面があったために、慌てず、慎重に進めることとし、留学生の留学期間の終了である3月末日時点でもまだ終了していなかった。しかし、共同研究者であるKim博士を中心に150のデータが集まることが予測される4月末までデータ収集を行うこととした。

5. 研究成果の公表

1) 論文投稿

学院留学中に3本の論文を執筆・投稿したが、うち2本はすでに掲載されており、最後の1本は査読中である。それらの論文のタイトル、掲載雑誌等は以下の通りである。

- ① 石川久展 (2015) 「ハワイ州における日系高齢者の長期ケアの現状と課題」『老年社会科学』Vol. 36 No. 4, 446-454.
- ② 石川久展 (2015) 「ハワイ州オアフ島における日系高齢者に対する支援や長期ケアの現状と課題—NPO法人若葉ネットワークの活動を通して—」『Human Welfare』Vol. 7 No. 1, 35-46.
- ③ 石川久展 「ハワイ州ホノルルにおける日系中高年者の長期ケアに対する意識の実態—ホノルル日本語キリスト教会における日系中高年者の長期ケアに関する実態調査を通して—」『人間福祉学』、査読中

2) 学会発表

留学中の学会での口頭発表は以下の1本である。

Hisanori Ishikawa, “Burnout and its related factors among care workers in Japan”,

11th East Asia Social Policy Conference, University of Hawaii at Manoa, 2014.7.

3) 講演会

留学中、以下の3つの学術講演会で講演を行った。

- ① 石川久展「オアフ島における日系人社会の高齢化の現状と課題－長期ケアの問題を中心に－」『木曜午餐会』2015年1月15日
- ② Hisanori Ishikawa, “Aging Society and its Tasks in Japan: Focusing on Shortage of Care Workers”, Special Lecture on Myron B. Thompson School of Social Work, University of Hawaii, Manoa, 2015.2.9
- ③ 石川久展「オアフ島における日系高齢者の長期ケアに対する意識－日系中高年者の実態調査をもとに－」『NPO法人若葉ネットワーク勉強会』2015年2月18日

以上が学院留学の研究成果概要である。

研究成果概要のデータは、gakunai@kwansei.ac.jp まで提出してください。